



LAZONA^{ラゾーナ} 藤尾歴史散歩

藤尾学区まちづくり協議会 歴史文化部会



第23回 藤尾神社

● 藤尾神社



鎮座：大津市藤尾奥町 105 番地
祭神：国常立尊（くにとこたちのみこと）
由来：承和年中（834年—848年）創立不詳
平安時代（9世紀前半）の頃、園城寺
の西南の守護神として祭祀

● 現在の手水舎



藤尾神社は、藤尾奥町の奥、藤尾川の水源である如意岳と梅木谷の二つの原流が合流する宮の前と呼ばれるところに鎮座する。

最初に石鳥居があり、進むと左側には社号を刻んだ碑があり「藤尾神社」と刻まれているが社格は刻まれていない。小さな石橋があり渡って境内に入ると、左側には手水舎があり井戸はあるが現在は使われておらず簡易水道が設置されている。右側には、社務所があり平成初期に建て替えられた。ここに氏子が集まって祭礼の打ち合わせや準備をしている。

園城寺を護る裏鬼門の守護神 国常立尊 鎮座

建て替え時期に床下から出てきた湯釜には「二宮大権現」への御紋が用いられていた。二宮大権現の祭祀への木地師の関与と思われる。

頑丈なこの釜は、初詣の際には湯沸かし釜として活用されていた。現在は大津市歴史博物館に保管されている。

作成時期は、二宮大権現を使用していることから江戸時代以前につくられたものと推測される。理由は、江戸時代以前は御紋を使用できるのは木地師と皇族に關係がある社寺だけであり、明治以降は禁じられていた。釜が床下から発見されたのは釜の御紋が見つからないように隠したと想定される。

二宮大権現という神号は藤尾神社の起源を考えるうえで非常に重要な意味を持っているように思われる。

（文 藤尾奥町氏子有志）



● 床下から発見された湯釜（大津市歴史博物館 蔵）

余話

藤尾奥町には応神天皇を祀る「石清水神社」、安徳天皇等を祀る「神明神社」の二社がありました。現在は藤尾神社の本殿前に移され、藤尾の神々として大事に祀られています。（歴史文化部会）

バックナンバーご希望はコミュニティセンターまで

